

節分ってなあに？

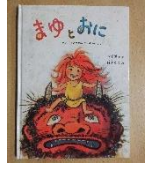
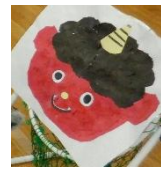
立春の前日を節分と言い、邪気を払い訪れる春を元気に過ごせるようお願い、豆まきをします。豆まきには、鬼を外へ払い、福を家内に呼び込むという目的があります。

鬼が出てくる絵本や『鬼のパンツ』の歌を楽しみ中で、「節分ってこんなことするんだよ」と節分について話したりしながら過ごしてきました。節分の制作は、みんなで気持ちをついに豆まきを楽しめるように、みんなで協力して3色の鬼の顔を作りました。クリスマス制作から経験しているハサミは、子ども達の意欲もそそられ、紙を切る動作も以前より力の加え方が分かるようになり、スムーズに行えるようになってきましたよ。使っている途中で落ちたものを拾ったり、席を立つときにはハサミを一度机に置くなど安全な使い方も知らせています。豆は新聞紙を丸めて作り、「ギュッと力を入れて丸めてね」と伝えると指先の力を使って丸めてくれていました。

おなかのなかにおにがいる！

絵本『おなかのなかにおにがいる』を見る中で、自分のお腹にも鬼がいるかも、と想像を膨らませ、「みどりなんだよ」「ごろんってしとるよ」と、教えてくれる子もいました。

豆まきではそんな、お腹の中にいる悪い鬼をやっつけるぞ！と意気込み、元気よく「おには～そと！」と、新聞紙の豆を力いっぱい投げていましたよ。やり終えた子ども達の表情は「もう悪い鬼おらんね！」と達成感で溢れていましたよ。ゆり組さんのお部屋から、鰯を焼いて鬼が嫌いな匂いがふわ～と香り、「これ何の匂い？」と興味を持っていました。「これは鬼が嫌いな匂いなんだって！」と伝えると匂いをかぎ、嗅覚も使って節分という行事を楽しめたように思います。



おには～そと！！



もうすぐすみれさん！

春の頃の子ども達を思い出すと、「自分でやってみよう！」と出来ないながらも一生懸命だった姿が懐かしく思い出されます。

《自分で出来た！》の喜びと達成感を沢山味わってきた子ども達は、色々なことが出来るようになった自分に自信を持って過ごしているのを感じます。その自信を胸に、すみれ組になることに楽しみと期待を持っています。しかし、時には「すみれ組ってどんなことするの？」と新しい世界に踏み出す不安を感じることもあると思います。そんな時には、その不安に寄り添い、「大丈夫」とそっと背中を押して、子ども達が安心して自分の足で踏み出せるよう見守ってあげられたらと思っています。

ひなまつりは『桃の節句』と言われ、子どもの健やかな成長を願い、お雛様を飾ります。玄関にお雛様が飾られた日から、「お雛様〜！」と眺めたり、「うれしいおひなさま」の歌を歌って、ひなまつりに興味を持っています。

昔から伝わる願いや由来など、子ども達に分かりやすく伝えながら、一人一人が大きくなった喜びを感じられるよう、こども園でもお祝いをしたいと思えます。

ひなまつりの制作も楽しみ、マンダラ塗り絵で着物を作り、顔も目はシールで、口などは思い思いに描いて作りしましたよ。

ひなまつり

